



地域循環共生圏実現へ 地域での実践と道のり

佐賀県鹿島市役所
江島美央氏



— お仕事内容を教えてください。

佐賀県鹿島市役所のラムサール条約推進室という部署に所属しています。当市では平成27年に「肥前鹿島干潟」がラムサール条約に登録されたことをきっかけに、有明海と干潟の保全・再生、交流学习、ワイズユース・利活用を図ることを目的とした「鹿島市ラムサール条約推進協議会」が発足しました。地域の多様な関係者で構成されており、ラムサール条約推進室も当協議会の一員として活動に携わっています。

— 共生圏づくりに取り組む中で、困難に突き当たることがありますか？

行政として地域のためを思って行ったことが却って負担になってしまい、地域の方からご指摘を受けたことがあります。最初は悩みましたが、相手の話を良く聞き、どうしたら地域の方が喜んでくれるかを深く考え、地域の行事やイベント事には必ず出席して、海岸清掃の仕事もまず自分たちが率先して取り組むようにしました。そうするうちに以前は取組に批判的だった方が味方になってくれたり、困ったことがあったら助けてくれる事業パートナー企業や地域の方とのつながりができたりして、今ではたくさんの方のご協力のもと取組を進められているように思います。

八方塞がりだと思っても、諦めずに行動し続けているといつの間にか新し

い道が見えてきます。こだわらなければ活路は見出せるという実体験が私のモチベーションかもしれません。

— 実体験があるのですね。最近の出来事を教えてください。

鹿島市では有明海でノリの養殖をしているのですが、養殖中のノリが冬季に飛来するカモに食べられてしまう被害の被害が深刻で漁業者の悩みとなっていました。そこで今年度はその対策のため、カモをノリ網から遠ざけるLEDライトの投光器を海上に設置し、その効果を測る実証実験を行いました。実験は環境省事業をきっかけに知り合った静岡県浜松市のパイフオトクス株式会社というLED照明装置に高い技術力を持った企業と協働して行い、地元で船や船舶免許をお持ちの有志の方にもご協力を頂きました。

鹿島市では、こうしたSDGsの理念を踏まえて鹿島市の取組に協力頂ける企業や団体を「肥前鹿島干潟SDGs推進パートナー」として募集し、現在は約50団体に登録頂いています。

— 有明海が協働を生む場になっていくといいですね。

有明海的环境保全を通じたSDGsの推進事業に取り組むパートナーが増え、横のつながりももっと広がっていくといいなと思っています。

それから、実はラムサール条約登録

地「肥前鹿島干潟」では、設備の関係で人があまり入ったことがなかったんです。でも今年SDGs推進パートナーのご協力により「潟を踏もうぜプロジェクト」を発動。約150人が20年ぶりぐらいに登録地の干潟に入りました。市内の別の干潟で行われている「ガタリンピック」のように定期的に行えたらと思っています。

【聞き手：つな環編集部】



LEDライトの投光器設置

江島美央（えじま みお）

長崎市出身。2003年佐賀県鹿島市役所入庁。2015年のラムサール条約登録を受け、翌年新設された「ラムサール条約推進室」に設立当初より所属。現在6年目。環境資源を活用し、地元にお金を落とす仕組みを作りたいと環境省「地域循環共生圏事業」に携わり、現在は環境と経済を回す「鹿島モデル」の構築に取り組んでいる。2021年冬は、週3日は有明海の海上に出て、LEDを活用したカモの誘導実験を見守り中。本当は歴史専門。